

令和3年度 第1回恵那市子ども・子育て会議 議事録

日時：令和3年7月27日（火）午後7時～

場所：恵那市共同福祉会館 集会室

---

1. 委嘱書の交付
  2. 市長あいさつ
  3. 自己紹介
  4. 委員長・副委員長の選任
  5. 委員長・副委員長のあいさつ
  6. 議題
    - (1) 第2期子ども・子育て支援事業計画について
    - (2) 子育て支援施策の現状について
    - (3) 幼児教育関連の現状について
    - (4) 今後の恵那市における子育て支援施策について
  7. その他
  8. 閉会のあいさつ（副委員長）
- 

欠席委員 なし

子育て支援課長より開会の発声

- ・定足数の報告。→過半数の出席があり本会議は成立する旨を報告。
- ・公開会議の旨を報告。

1. 委嘱書の交付

■事務局：市長より委嘱書の交付

（名簿順に委嘱書の交付）

2. 市長あいさつ

■市長：今年度第一回目の会議となる。夜間お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。子ども子育て会議は私にとってもとても大切な会議。将来を担う恵那市の

子どもたちのために絶対に必要な施策。活発なご意見を賜りたい。

報告したいことがあり調べてきた。まず出生数 H30 は 305 人。R1 は 241 人、R2 は 235 人であった。合併時 H17 は 427 人であったのでずいぶん減っている。

婚姻数について H30 年は 157 組。R1 年は 168 組。R2 年は 116 組であった。コロナでの自粛という事もあり大きく減っている。今後戻ってくれればと思っている。議論の参考にしていただきたい。

今回の会議では、計画のできている現状のサービスを改善していく意味合いもあるし、新たに恵那市にとって魅力のある子育ての率直なご意見がいただければと思う。我々はそれらを少しでも形にしていきたいと思う。

### 3. 自己紹介

名簿順に委員より自己紹介を行う。

### 4. 委員長・副委員長の選任

#### ■事務局：委員長・副委員長の選任について

恵那市子ども・子育て会議条例の第 5 条により、委員長及び副委員長は委員の互選によりこれを定めるとなっている。（「事務局一任」の声）

委員長に恵那市地域自治区会長会議の坪井弥栄子様

副委員長に恵那市民生児童委員協議会児童福祉部会の大嶋直子様  
お願いできればと思う。（「異議なし」の声 拍手：多数）

### 5. 委員長・副委員長のあいさつ

■坪井委員長：委員長にご指名いただきました地域自治区会長会議の坪井です。

今子どもたちを取り巻く情勢は、コロナ過で夏休みに入ったが、何かどこかで縛りがあるような、窮屈なような、楽しみが半減してしまっているように思う。

お手元に配られている「恵那市第 2 期子ども子育て支援計画」は策定されてから 2 年目に入っている。今日はこの計画を元に新たな取り組みや拡充についてご意見をいただきたい。先ほど市長さんが話されたように期待をしておられるので忌憚のない意見をお願いしたい。

■大嶋副委員長：坪井委員長さんに一生懸命ついていきたい。

今日の岐阜新聞に恵那のことが掲載されていた。「木育木製のスプーン恵那市の

子どもたちの成長を願う」の記事。来年度恵那の木を使ったスプーンを作って、お祝いに配りたい。先日モニターを募集して活動を行った。恵那の地に根付いたことができるの良い。若いママたちがすごく関心を持っていてくださることがとてもうれしい。

■事務局：議題に移る。

■委員長：では議題に入る。（１）第２期子ども・子育て支援事業計画について・（２）子育て支援施策の現状について・（３）幼児教育関連の現状について  
これらは関連があるので、続けて説明をお願いします。

■事務局：「第２期子ども・子育て支援事業計画」をご覧いただきたい。我々の施策の基になっている計画書。これでは足りない部分もある。時代が進んでいく。皆さんに何か良い政策はないか？何か特色のあることができないか？のご意見をいただきたい。

本来は計画の進行管理をこの子ども子育て会議で報告をし、ご意見をいただくのが趣旨、毎年 11 月頃行っているのですが、今日は新しい委員さんへの説明をさせていただく。

色々な数字、児童の人数などたくさん載っているが、我々が何をやりたいかが 21 ページから掲載されている。

基本理念とリーディング施策。結婚から子育て期までの切れ目のない支援として、推進方針や取り組みについて示してあり、取り組んでいる。35 ページからは、幼児教育課担当の保育ニーズを充足する体制の整備、41 ページからはすべての子どもと子育て家庭に配慮したきめ細やかな支援として、やるべき事や取り組みが書いてある。

続いて（２）子育て支援施策の現状について、子育て支援課が何をやっているかは、「おおきなあれ」をご覧いただければお判りいただける。妊娠から出産、主に子ども子育てに関する色々なサービスなどについて掲載されている。

資料No.1-1 には人口の推移や出生数、世帯数が記載してある。右肩下がりとなっている。1-2 には、現状の市のサービスが年齢を横軸にして記載してある。あとの議題でご意見をいただく時の参考にしていただきたい。

■事務局：幼児教育関連の現状について。資料 2 は 7 月 1 日現在の市内子ども園保育園の在園児の数を掲載している。公立園と私立の園があり、合計して 1,085 人が在

園している。前年同時期は 1,115 人で多少減少している状況。こちらでも出生数の減少が影響していると思われる。

■委員長：今日は（４）「今後の恵那市における子育て支援施策について」のところに時間を掛けたいとの事ですのでよろしくお願いします。

資料 1-2 のところで色々な施策があるわけですが、もう少し膨らませるところがあるのではないかと、0 歳児や小さい子のあたりはサービスがかたまっているが、ある程度の年齢になると抜けて行ってしまふ。このあたりの現状についてのご意見をいただけたらありがたい。

資料の 3 の説明を願う。

■事務局：資料 3-1 は、国が示している少子化社会対策大綱を抜粋してお示している。結婚支援、妊娠出産への支援、不妊治療、仕事子育ての両立支援、地域社会における子育て支援、経済的支援などとなっている。資料 3-2 は、恵那市民の方の意見。令和 2 年度に行った意識調査から抜粋したもの。希望する子どもの人数と実際の子どもの人数を聞き取ったもの。3 人設けたいと思った人が実際には 2 人や 1 人にシフトしていることがうかがえる。

理想の人数よりお子さんの数が少ない理由は、「お金がかかる」「年齢的な理由で…」「出産に不安がある」などが挙げられている。

どうしたら理想人数に近づけるかでは「職場の理解」「小学校から高校までの費用負担軽減」などが挙げられている。

■委員長：いつのアンケートでもこのような回答が上がってくる。どうしたらこれが解消できるかが課題。

恵那市は早い段階で子どもの医療費が無料化となっている。子育てをしていくうえで安心感がある。現在は中学生まで。いま高校は義務教育のような感じ、そのあたりはどうかと思う。

また、肥満の子が多く若年性の糖尿病も発生していると聞くが、このあたりはいかがか？

■委員：確かに多い。中津川市と比較しても恵那市の方がとても多い。小中学生の肥満が多い。今年度から学校の血液検査（貧血・コレステロール）に糖尿病の検査を追加してもらった。

→原因は？

それがまだわからない。現在取り組み中。（顕著な）地域性もない。

■委員長：若い人検診は 19 歳以上を対象に行われているが、高校生は何もない。医療費の無料化も中学生まで。16 歳から 18 歳の間には何かできないかと思う。糖尿病の検査とかでも、「健康のために検査をする」という意識を、若い人に持ってもらいたい。

■委員：子どもたちの運動という事で問題提起をすると、走り回ることのできる運動環境について。自分の子どもも日頃は学童に行って遊んではいるが、休みに遊べる場所が必要。去年のこの会議で公園のマップを作ってもらったが、小学生の遊びに、もう一歩何か手はないかと思う。

それから、男性の育休取得が 7.48%にとどまっている。資料 3-2 にある「職場における理解・支援」「育児・家事に関する家族等の協力」などのように、やっぱり父親かと思う。授業でも男性がきちんと家事育児に関わっていける仕組みを作るのが大切と伝えている。実態は難しい。

先ほどの木育スプーンの話。恵那の文化を受け継ぎながら、最初の出会いがスプーンだったら、次の養育だったら何だろうか、小学校だったら何だろうか、中学校、高校と一つの道筋が見えてくると恵那の魅力が判りやすくなるのかと思う。

■委員：今、乳幼児期に砂や泥に触る体験が少ない子どもたちは、土や泥が「汚い」という感覚があり心配。子どもは親が楽しそうに一緒に遊ぶことで遊びが広がっていく。乳幼児に五感で感じる体験をたくさんさせたい。

事業計画の中に、具体的に何をしていくのかが見えてくると良い。スプーンのモニターを募集した時にあっという間に倍の数の応募があった。「森の事や自然の事を知らなかった」という感想が多かった。「もっともっと木に関わりたい」という意見もあった。

恵那市でどんなあそび場が欲しいかのアンケートを取った。子どもを連れて行っても炎天下しかない。川や坂など自然の所でいっぱい遊ばせたい。木のおもちゃが一杯あるところで遊ばせたい。こういうお母さんたちの期待に応えたい。

■委員長：木育から公園の話に及ぶご意見だったが、資料 1-1 にあるように全体の事にご意見をいただきたい。

■委員：私の住んでいるところは市街と比べて公園も無い。施設も無い。以前のアンケートで「施設はどうか？」と聞かれたが答えようがなかった。

施策について考えた時、まわりまわって働き口や企業の誘致に行きついてしまう。恵那に進出してくれる企業に土地を安く提供するとか働く場所が重要。

子育て支援員の研修を受けている。興味はある。子ども達と関わる仕事がしたいが、自分の子どもに手が掛かるうちは、なかなかよそのお子さんにまで手が回らない。少しの時間を利用して子どもに関われる経験値が欲しい。こういう計画や施策の中で、支援員を雇ってもらえる情報を、研修時に出してもらえると良い。

田舎は子どもが減っている。大学などで出て行ってしまいが、戻って地元で働きたいと思う子に対する支援が欲しい。仕事がある。嫁さんも連れて来る。例えば先ほどのように、小さい頃に木に触れあっていて、大きくなって戻ってきて木に関わる仕事がある。自分の子どもにも木の良さを伝えられる。そういう仕組みがあるといいのかと思う。子どもが少ないので、友達の家がどんどん遠くなる。低学年の家はお母さんが車で連れて行かないと友達と遊べない。でも働かないといけないとか、遊べる場所・子どもたちが集まれる場所があると良い。そこに支援員が居る。そんなのいいなあと思った。

■委員：子育て会議は自分のプロフィール的な部分と重なるなあと思って参加させてもらった。田舎が好きで田舎にあこがれて（恵那に）きた。間伐事業や移住定住事業等にも関わらせてもらっている。子どもは独り立ちしているが、中学2年から健全な不登校をしていた。スピーカーコンテストに中学生で応募して大人を差し置いて入賞して次の年も入賞して、学校には行かず「コレで生きて行く」という選択をした。子どものやりたいことを目一杯やらせた。自分も不登校予備軍だった。地域に入って防災だとか地域の経済を回すとか関わられてこられた。

やりたいことを見つけられる子もいれば、見つけられない子もいる。それぞれに道筋をつけてあげたり、選択肢を作ってあげたりするのがとても大切。

子どもの糖尿病の話は知らなかった。運動不足やコロナ禍での活動自粛なども関係しているのでは…

不登校の子を里山に入れて体験させることをお手伝いしたことがある。急に元気になって「また来たい」と言うようになった。人間の持っている感覚なのか、のびのびと過ごせる仕組みができたらなあと思った。

去年から木育に携わっている。ものすごい手ごたえがある。子どもたちの根本に関わる問題。子どもがのびのびと過ごして、遊べて、色々体験できる機会を作ることができたらすべての事にプラスになっていくと思う。

■委員：結婚して恵那に来た。41歳で子どもを産んで今1歳8ヶ月。意図せず高齢出産になってしまった。生みたかったけど機会が無かった。ただ30代の時には運動

とか食べ物に気を付けていた。不妊治療も多治見まで行かないといけなかったので仕事を抜けさせてもらうのに大変だった。恵那でも治療ができれば助かる。産休に入って市の料理教室に参加した。お母さんなりたい人達に不妊治療の前に健康と栄養についての教室も大切かなあと思った。

■委員：先ほどの砂遊びの件、ウチの園に入園してくださるお子さんも、はじめは抵抗がある。年齢を重ねるごとに大きい子がやるのを見て小さい子も次第にやれるようになってくる。家ではなかなかやらせてあげられない経験を園でやらせてあげられたらいいと思って見守っている。以前はいろんなところへ散歩に出かけて行って、林の中や森の中で遊ぶ活動ができていたが、最近はそこまで行く道中に危険が無いとか、現地に危険はないとかいろいろ考えなくてはならない。色々な活動ができなくなってきていると感じる。子どもたちが成長していく中で、健やかに育つ環境が作ってあげられたらと思う。

■委員：当園では歩く・体を動かすという事を考えて保育を展開している。最近気になるのは、子どもたちが「休みの日に公園行ってきた」と言うのでどこに行ってきたのかを聞くと「中津川の公園で遊んできた」と言う。あそこは凄いおおきな遊具があると言う。

先日まきがね公園の大きな滑り台を目当てに 4.5km を歩いて行ったのに壊れて使えなかった。他の遊具は 6 歳以上なので保育園児が遊べるのは滑り台のみ。使えずとても残念な思いをした。子どもたちが全身を使って遊べるような大きな遊具があると良いのではないかと思う。

それから、支援が必要なお子さんに対して、特別支援学校はあるが 0 歳から就学前の子どもで支援が必要な子は保護者が働きたくても働けない。どうしたらいいのかという質問を受けた。私の方ではお答えしかねたので、そのあたりはどうなっているのか。

子育てをされていて、大学に進学するお子さんもたくさんいると思うが、恵那市に帰って来てどこで就職しますか？という問題がある。公務員ですか？教員ですか？自営ですか？大卒の受け皿が思い当たらない。

私もうちの子も恵那西中学校に通った。かなり遠いし雨の日は道も危険ということで。送迎をする保護者がとても多いのは気になる。自転車で行けばもっと運動にもなるのになあと思う。

■委員：恵那市の学校を取り巻く環境は、校医の先生が本当に親身になって関わっ

てくださるし、地域の講師方々もそれぞれの学校に入って熱心に指導してくださる。なかなかこういう市は無い。子育ては難しいが、地域の状況もあるかもしれないが、小学校の段階で地域と密着して色々な人と接しながら地域の良さを伝えながら教育していくのは恵那市の特徴。先ほどの木育もどんどん進めて、できたら小学校の方にも来ていただき、一緒になって取り組んでいけば新しい方向が作っていただけるので素晴らしい事だと思う。

自分の住んでいる市は、外国の方が増えてきている。子育て支援課さんをお願いしたいのは、支援が必要なお子さんとその保護者の支援をお願いしたい。教職員が直接家庭を支援するのは難しい。第三者の方が入っていただいて、親さんを助けてくださると子どもがのびのびと成長できる。ベトナムやインドネシアの方がコロナの影響で国に帰れないとのことで転校してくる現象がある。言葉の壁があり、支援が行き届かない。こういった方たちはどこに求めたらいいのかが問われている。

■委員：子ども園になって幼児コースと保育コースが選べるようになったが、多くの方が働いていらっしゃるので保育コースが増えている。お母さん達は日々忙しくしてみえる。園にお迎えに来た時ぐらい他のお母さんとお話してストレス発散やコミュニケーションの場になればと思うが、コロナ禍なので不自由を掛けている。休みの日の子どもたちのあそび場が無いという意見もいただいている。あそこへ行けば誰かが居る。あそこへ行けば誰かとお話しができるという場があれば良いと思う。

園でのお子さんの成長を通して、「こんな風が変わった」「こんなことができるようになった」という事を通じで、子どもって大変だけどかわいい。大変だけど面白いって感じてもらえたら嬉しい。

■委員：学童保育では体を使って遊ぶことに関しては恵まれている子たちが来ていると思っている。うちの子は都会に居るが「都会は公園がいっぱいある。なんで田舎には公園が無いんだろう」と話す。近くに山とか川があるからだろうか。

昔は遊べたが今は安全面とか考えるとそうではない。田舎の暮らしは子どもがのびのびと育てられるというが、都会の方がのびのび育てられるんじゃないかと思ってしまう。滑り台が故障のままでは子どもたちはせっかく出かけても残念ぜひ修理をしてほしい。

学童保育では、学校さんがとても協力的で助かっている。夏なのでという事で水遊びもさせてもらえる。学童保育に来ている子はしあわせだなあと思う。市内の学童保育でみんな子どもたちがしっかり遊べて、お仕事に行っているお父さんやお母

さんがもっと利用しやすくてもっと色々な体験ができるようになると良い。

■委員：進化しているなあと思ったのは、恵那くらしビジネスサポート。展開がきめ細かい。待っているだけじゃなく高校や特別支援学校へ行ったりして、子どもを見て仕事を探したり、ものすごくパワフルに活動していると思う。内閣府の大綱にある子育て包括支援センターの強化という事で、恵那市も包括支援センターを立ち上げたと思うが、それによってここが進化したとか、こういう所がうまくいっているとか、強化したことでどんな点が進化したか聞きたい。駆け込み寺の存在でありたいと聞いた気がする。

子ども園になって 7.8 年になると思うが、子ども園にした事の利点、子育ての応援になった事、反省点・振り返りをする時期かと思う。幼児コース・幼保コース・保育コースに分かれたが、一緒のクラスで途中から帰る子・残る子がいることに対して疑問を持っていたが、やっぱり良かったのか改善しないといけないのかをとっても聞きたい。子育て応援になったのかどうか。

委員長が言われたように、政策がぶつ切りの気がする。18 歳まで一貫して支援をしているのは「あおば」ぐらい。高校生の親御さんの心配、特別支援学校の相談も受けている。

飯田市が母子手帳を「子ども手帳」にして 18 歳まで対応にしている。色々な健康の事、教育の事など 18 歳までの記録ができる。とてもうまくいっているとの報告があった。いいところは取り入れてはどうかと思う。

■委員：学童保育について質問したい。市内の学童保育の開催場所について、学校の教室や市の施設以外の場所を使用しておられるクラブは何か所ぐらいあるか？

妊娠中、未満児のお母さんが子育ての事で何か判らない事をちょっと相談したり話を聞いて欲しい時にぷらっと寄れる場所は市内にどのくらいあるかお聞きしたい。

■委員：自身の子育ては終わっている。娘が下の子の里帰り出産で恵那病院で出産して自宅へ帰って行ったが、コロナの影響で検診がことごとく延びて 1 歳検診も 3 ヶ月後になってしまった。本当ならば検診などでママ友ができ交流が深まっていくはずだったが、機会が無くなってしまった。検診は完全予約制の個別受診、兄弟の同伴も不可。幸い上の子の時にママ友はできたが、下の子に関してはママ友が居ない状態。都会に関わらず恵那市でもこういったお母さんが少なからず居るのではないかと思う。

また、委員長と一緒に中央公園のプロジェクトにも参加させていただいている。

コロナ禍もあって会議が無いが、素敵な公園ができるよう皆さんのご意見が話しできたらいいなあと思っている。

■委員:事前の資料を読ませていただき、今日はどういう会議なのかと考えて来た。皆さんの意見を伺うとそれぞれ色々な意見が一杯ある。もう少し的が絞られるといい。

先ほどの話にもあったように、自分も娘が2人あるが東京と大阪に出て行った。戻っておいでと言ったが「賃金が見合わない」との回答。大学は出たが帰ってこない。人口のリターンについて考えようかとか、皆さんが思う一つ一つの子育ての施策について考えようかとか、何か的を絞っていただくと初めて出席した人間としてはもう少し判りやすかったのではと思う。もう少し子育て支援課さんの方で絞った形で課題を出していただけたら良かったと思う。

■委員長:今日はそれぞれの立場・職業などで幅広く意見を出していただいて、プロジェクトチームなどを立ち上げて、出していただいた意見をまとめていってはどうかと考えていた。始めにお伝えしなかったので申し訳ない。今日は皆さんの意見をそれぞれの分野でいただいて、今後の施策に繋げていきたい。

■委員:子ども子育て支援計画を見させていただき、色々な課が多岐にわたって協力し合っていかなければならない大変なことだと思った。

コロナ禍になり、たとえば貧困について何かデータが戴けたら参考になると思う。給付金がどれくらいの世帯に給付されたかが知りたい。計画の中には無いがコロナのような大きな変化があった時に市としてはこういうところを必要だと思って考えた、というところがあれば聞かせていただきたい。

■委員:社協の事業について現状をお話しさせていただく。児童センターの事業があるが、コロナ禍で昨年から運営状態が大きく変わっている。定期的な大きな行事は開催できていないが、お子さんを連れのお母さん方は徐々に増えてきている。お母さん方は集まる場を求めているのを感じる。

私の勤めているにじの家では未就学児に対しての発達支援を行っているが、現在75名の登録がある。小学生が対象の放課後等デイサービスには3年生までの制限があるが25名の登録がある。令和2年の延べ利用者数は、児童発達支援は、にじの家4,011名、おひさま2,852名、年間6,863名の利用がある。発達が心配で支援を受けたいと思っているお母さん方がとても多い。また、核家族化の問題もありお母さん方がお子さんにどう関わっていいのかわからなくて、みんなスマホの中の情報で子育て

てをしている。ネットにあふれている不確かな情報で余計に不安になって、それで相談に見えるケースが非常に多いと感じる。不安だからおひさまやにじの家に通っているだけでなく、実際に発達支援が必要で支援によって健やかに育てただけのお子さんもたくさんあり、現状としてみなさんに知っていただきたくて数字をお示しした。

放課後等デイサービスは、民間の事業所もたくさん開設している。学童保育とは違うが、お子さんの居場所としてお母さん方が求めている、すでに受け皿が一杯。発達支援を必要とされるお子さんは、こんなに少子化でもどんどん増えている現状。この会議でも検討の材料にさせていただけたらと思う。

■委員:上矢作小学校の PTA の代表として参加させていただいている。上矢作では児童の数か少ない、出生数も少ない、園児も 25 名しか居ない。小学校の壊れた遊具もすぐに直してもらえず、親が休みに出て直している状態。子どもの数が少ない分、親の数も少なく過疎化が進んでとても苦労している。田舎なので道も狭い。子どもたちの通学の安全のために陳情をしているがなかなか難しい。できればもっと簡素化してみんなの意見を吸い上げてもらえる仕組みができると非常にありがたいと思う。

私が長島町から上矢作町へ引っ越した時が子ども園のはしりの時だった。みんな保育コースで、私の子だけが幼児コース。妻も引っ越したばかりで友達が居ない時に、自分の子だけ 2 時に引き取らなければならずコミュニケーションが取れず苦労をした。色々掛け合ったが聞き入れてもらえず、最後まで幼児コースで 2 時に帰るという生活。本当にこれで良いのかと思う。上矢作町は人数が少ないので今後ひとりだけ幼児コースというようなことが起きないとも限らないので、ぜひ検討していただきたい。

■委員:子ども園の保護者として参加させていただいている。上の子が 2 年生で夏休みに入ったところ。毎日「暇、暇」と言っている。自分が子どもの頃は、駄菓子屋があって、公園もあって、外へ出掛ければ誰かに会えてみんなと遊べた。今はそういう所が無くなってしまった。子どもに暇なら外に出かける様に言えないのが現状。こういう時代だから昔以上にみんなが集まれる場所として公園が必要じゃないかと思う。

理想の子ども的人数より実際の子どもの数か少ない理由の回答として一番に「子育てにお金がかかる」とあがっている。こういうアンケートではよく見る回答だが、

実際にどれくらい費用が掛かるのか判らない人も居るのではと思う。実際にこれぐらい掛かると知って産まないのか、ただ単にこれぐらいと聞いているだけで諦めてしまっているのか判らない。自分には 3 人の子どもが居るが、将来のお金は不安に感じることはある。色々な事例はあるかと思うが、「恵那市だとこれぐらい」という実際の数字が判れば、生み控えるのを解消できる人もあるのではないかと思う。

■委員:10 カ月の子どもがいる。8 月で恵那市民になって 1 年となる。恵那の事が知りたいと思って参加させてもらった。子ども元気プラザや児童センターをよく利用する。全く友達がいなかったのととても良かった。子育て支援センターのリトミックや元気プラザの行事が少しずつ復活して来ていて、参加するとママ友ができて話し相手も作れる。子育てのストレス解消や息抜きにもなる。

恵那市に引っ越してきて思うのは、中津川市と比べて遊具が少ないと思う。せっかく恵那市は森とか自然とかたくさんあるので自然と触れ合えるものがあるといいなと思う。

■委員長:せっかくここに来てもらっても一言もしゃべらず帰っては委員になっていただいた意味が無いと思っているので、ひとりずつ一言ずつ意見をもらっている。いつもはちゃんと議題があってそれについて話し合いをしているが、今回は支援計画の中身をもっと充実させたいという事でざっくりばらんな意見をいただいた。

学童保育、放課後等デイサービス、男性の育児、木育、働き口や企業誘致、高齢出産、遊び・運動、母親の喋る場所、子育て世代包括支援センター、こども園になってどうかとか、母子手帳を子ども手帳にしてはどうか、コロナ禍のこと、本当にたくさんの意見をいただいた。

どれを拾っていくかはこれからの議論になると思うが、分科会を作ってそこでまとめて事務局へ提示できればと思う。色々なご意見が載けて良かったと思う。

子育て世代包括支援センターになってどう変わったか。こども園になってどうだったかの 2 点。学童保育の実施場所についての質問。こちらを事務局からお答えいただきたい。

■事務局:子育て世代包括支援センターを作って力を入れているのは「連携」。昨今、虐待を見逃したり、連携がうまくいかず子どもが死んでしまったり、重傷を負ってしまったというニュースが聞かれる。社会福祉、高齢福祉、保健センター、子育て支援が、包括支援センターを作ることによって連携をして、取りこぼしの無いように取り組んでいる。

■事務局:包括支援センターは、虐待・DVも担当だが、生まれた時から18歳までの子育てに関する全てにおいて、包括支援センター（えなっ宝ほっとステーション）で子育てに関する相談を受けることができる。妊娠中の方の相談も含めてお受けしている。保健師も常駐しているし、隣には健幸推進課もある。協力しながらケアさせてもらっている。

■事務局:学童保育については、令和2年度のデータでお伝えすると、通年型が20クラブ、季節型が1クラブとなっている。冊子62ページと比較して2クラブ増加している。子どもの数は減っているが、共働きの家庭は増加しており学童保育のニーズも増加している。新たな学校でクラブが増えたのではなく大井小、大井第二小で利用者数が増えたため既存のクラブが更に増えたという増加。

開催場所は、学校や公の施設で実施しているクラブは21クラブ中17クラブ。地域の集会施設で開催しているクラブは2クラブ。民地に施設を設置しているクラブは2クラブとなる。この民地のクラブは大井第二小校区の学童クラブのみ。

■事務局:子育て世帯への貧困対策として給付金についてご質問があったが、社会福祉課が担当しており、本日は詳しいデータを持ち合わせていない。

貧困世帯で支援が必要な方については、気を付けてはいるが相談が無い限りなかなかつかみにくいところがあるので、そのあたりが課題となっている。

→後日調査:

子育て世代生活支援特別給付金（ひとり親） …311世帯、464人、2,320千円

子育て世代生活支援特別給付金（低所得の方） …153世帯、303人、1,515千円

■事務局:こども園にしたことの利点について、当時は保育園と幼稚園は別々の施設であった。市内のどこにいても均一の質の高い教育と保育を受ける事ができることが課題となっていた。当時市長部局の子育て支援課管轄にあった保育園と、教育委員会管轄であった幼稚園をこども園として統合し教育委員会で運営することで、保育だけでなく教育の面でも読書や英語遊びなどを実施し、また、これらの取り組みについて実施状況の進行管理を行い、保護者のアンケートによる事業の評価をしていただけるようにした。

幼児コース保育コースについては、国の子ども子育て支援法のなかで分けられている。保育コースは保護者がどこに就労しているか等で、保育の必要性を表す点数が決まっている。保護者の方の就労支援とともにコースが点数化されている。保護者の方の就労支援に沿ってコースを選択していただいている。保育コースと幼児コ

ースとでは、保育に差ができてしまわないかを幼保一元化の当時から懸念されているが、両方のコースの園児が居る午前中に主活動をおき、午後の活動はコースごとに変えるという方法を取っている。

■委員長:なかなか長くなりそうなので、次の時にじっくり説明をいただくこととしたいと思います。

■事務局:コース選択については、一昨年の保育料無償化の制度ができてから特に言われるようになった。(どちらのコースでも)同じように保育料を支払わなくて無償となるなら、長く見てもらえる保育コースで…と言われるが、制度上点数化しなければならないことがあって、お願いをしているところ。

■委員:「制度でこういう事になっている」という事を聞きたいのではなくて、子どもの状態で何か工夫は無いか、先に帰る子に対して何かできることはないのか?もう今はこども園になってしまっている。なってしまった事は仕方がないが、みんなで園長会なりで工夫していく事はできないか。「このままでいい」「システムはこうだから…」ではなく、もう少し中身で考えないといけない。幼児教育のレベルが本当に高くなっているかと言うと、「恵那市はこんなにレベルが上がってきた」とは思えない。振り返りをいつもしていただきたい。子どもの育ち、心の育ちが聞きたかった。

■委員長:まだまだ話したい方もあろうかと思いますが、何かかご発言いただけないでしょうか。

■委員:皆さんの意見をお聞きして、一つのパズルのように組み込んでいくと色々なものが見えてくと思う。これから恵那市の子育ては何を考えていくべきか、公園の話、支援員の活用の話、高校生をキーワードにした支援、男性の育児参加、親が子どもと遊ぶ機会や方法等今までにない施策や支援、恵那の木やスプーンや文化の継承など、これからの話と思う。

これまでの施策に対しての振り返りも必要。何が変わっただろうか。子どもたちの成長、その時期に必要な保育がきちとなされているか…

確かに主活動と幼保の活動は分けざるを得ないが、子どもをそこで線を引くことはできない。保育は教育と一体なので切ることはできない。2時で帰る子があと2時間一緒に遊べるという、その時間の貴重さはきっとあるだろうなあと、話を聞いて感じた。振り返りの中で考えてほしいと思う。

■委員長:本当にたくさんの意見をいただいたので、振り返りという事も今後考えな

がら進めていきたいと思う。

■事務局:ありがとうございます。次回は 11 月ごろに開催させていただきたいと思っている。追ってご案内を差し上げる。また、今日いただいた意見は非常に多岐にわたっているので、委員長の言われたように、改めて検討する機会を設けたいと考えておりご協力をお願いしたい。

■副委員長:長時間ご苦勞様でした、貴重なご意見がたくさん出て、恵那市のこれからは楽しみだと思う。皆さんが想いを出して練っていくことが大事だと思いますし、先生がおっしゃられるように、やってみてどうなのか、実際にやってみようよ、という事が大切。中津川市では 2 時に帰して実際にどういう影響があるか検討していると聞いた。他市と連携を取ったり色々な課と連携ったりしていくことが良い方向に向かっていくと思う。

— 終了 21:20 —